

やさしさネットワーク

常盤小学校六年

奈良岡愛純

みんなさんは、自分の住んでいる町や学校、自分自身のことが「やさしい」と自信をもって言えます。わたしは、自分の住んでいる地域や学校は「やさしい」と感じています。でも、自分自身のこととまではまだやさしさが足りない、もとやなしさがあればいいな、と思ってしまいます。自分で自身がもつていています。

しかし、そして、自分の通りで、やさしく、やさしさが、あります。自分が自身がもつていています。自分で自身がもつていています。

二の蔭崎町が、「やさしい町」にして、学校や住んでいる地域、そして、なに

いいくつかのことを提案したいと思っています。

「てほしい」という願いをこめて、

困ります。困っている人が、困る人と安心するものです。困っている人が、困る人と安心するものでも声をかけられることです。困っている人が、困る人と安心するものでも声をかけられることです。

困ります。わたしは、「としました経験」があります。けられました経験がある人は、「どうに声をかけられた」とした経験があります。困っている人を見れば声をかける人は、「き」と考

でも増えれば、「声をかける人が少なくしそう考

がれる」と、吉をかける人が少しずつ増えて、

ける人が増えてみんなにそのよさ  
が広がり、「声かけのネットワーク」  
「」が広かるのではないかとわた  
しは考えます。

次にわたしが考へているのは、  
見ているだけではなく「行動する」  
といふことです。例えばみなさん  
は、お年寄りが大きな荷物を持っ  
てつらそうにしている時、すぐに  
助けることができますが、たいは  
んの人は助けようと考へても助け  
る行動をすることができないのでは  
はないかと思ひます。こんな事で  
も勇気をもって「行動する」と  
をわたしは提案します。もちろん

一人では勇気が必要ですか？  
すは友だちどうして声をかけ合  
て誰がを助けることに慣れていき  
ます。そしていつでも誰かのため  
に行動するようになれば、一人で  
も人を助ける行動ができるよう  
なるとわたしは思ひます。人を助  
ける行動ができる人が増えていけ  
ば、「やさしい行動のネットワー  
ク」ができていいきます。

このように「声かけ」と「行  
動」の「やさしさネットワーク」  
ができれば、「やさしい学校」や  
「やさしいまち」がでていくの  
ではないでしょうか。

「やさしい学校」や「やさしいまち」にいたいと考えると、小さな子どもやお年寄りのための道具や施設を用意することも大事です。また、募金やボランティア活動も安全でやさしいまちにするにはとても大事だと思います。でも、わざが一番大事にしたいのは、人と人とのつながり。「ネットワーク」です。どんないい行動でもいい活動でもみんなで声をかけ合って協力し合わなければ、一人の力や一人の喜びにしかなりません。わたしは、みんなで声をかけ合って活動を広げていくことで「相手

だけよい」「自分だけよい」ではなく、「みんながよい」「みんなよがったね」と考えられるようになります。  
わたしの通っている常盤小学校は、自分の住んでいる地域、そしてこの藤崎町が「やさしさネットワーク」でつながり、「みんながつながったね」と言い合えて、やさしさがあふれるようになればいいと愚います。まずは、わたくし自身が友たちや周りの人にお話をかけて小さな一やさしさネットワークをつくることから始めます。

やさしい町・やさしい学校のた  
めに

常盤小学校六年白取彩実

「やさしさ」はありますか。  
わたしは学校や町に「やさしさ」  
があるとはあまり感じていません。  
ところで、「やさしさ」とは何  
かわたりに考えてみました。  
親切で人に対して思いやりがある  
といふことだと思います。例えば、  
物をなくした時、友達が一緒に探  
してくれた時も親切・人に対し  
ていてくれた時も親切

の思いやりになると思います。  
じめられて泣いている時、友達が  
なぐさめてくれても、親切・人に  
対しての思いやりだとわたしは思  
います。このような思いやりやは  
さしさを広めるためには、どうし  
たらいいか考えてみました。  
一つ目は、言葉のやりとりです。  
友達が自分の悪口を言つたのを聞  
いてしまつたら、「自分はあの人  
に何が悪いことをしてしまったが  
思つてしまします。どうしようと  
どうしよう」と困つてしまひます。  
自分のかげ口を言つて居るのを聞  
いたう、その友達にそのわけを聞  
い

てみる。友達が今、すこくイヤなことをされたらその友達にしゃべって納得してもらえれば、直そうとしてくれると思います。また、たれたら、少し距離を置いてみると、新しい友達をつくる事も、ひとつのやさしさです。二つ目は、あいさつで、相手はうれしくなると思います。毎日続ければ、「この人は良い人だな」と友達や先生に良い印象を持ててもうえるはずです。

「よ、」でも声をかけ

うれた相手は、うれしくなると思  
うし、二人よりも三人、三人より  
も四人と声をかけていくことで、  
も、と会話がはずむと思いま  
そうすることで、コミニケーショ  
ン能力が上がり、仲間が増えるこ  
とでやさしい学校につながると思  
います。

三つ目は、障がい者・お年寄り  
のための安全な町づくりです。自  
が見えない人は、道にある点字を  
たよりに歩きます。しかし、その  
道に自転車や物が置いていると、  
その点字がふさがれて歩けなくな  
てしまいます。そのため道に物

を置かないようにしておきます。もう  
どう犬を増やすこと。音の出る信  
号機を増やすことが考えられます。  
また、アンケートも行えれば良いと  
思います。お年寄りが、雪道がす  
べりやすい時転んでしまってケガを  
しないために、道にお湯をまきす  
べりにくくすることも良いと思いま  
す。

四つ目は、花を植えることで、見た日の印象  
花を植えることでも、見た日の印象  
も良くなり、環境もよくなりま  
す。

実際にわたり達の学校も春になります。  
と花植えをしていきます。学校に来  
た時、「きれいだなあ」と思いま

す。公園を見ても、緑しか無い所  
もあるので、春になつたら公園に  
花を植えたり、学校の併せん前にも花を植えたり。  
ランナーを置いたり、道路をいに  
も花を植えたら良いと思ひます。  
環境にもやさしいし、身のまわり  
ちやさしさでふれると思ひます。  
このように、親切・人に対しまわ  
思ひやりをすることが、まわりの  
人からは、この人は親切と良い印  
象をもつてくれるのはずです。そ  
うすると、自分が困っていふ時にま  
わりの人から助けてもらうことが  
できます。また、自分が友達やま

わりの人助けたから、次は自分が助けられようと思ふ  
はずです。そうすることで、恩返しのようになると相手↓  
自分と広がって行くと思ひます。  
また、花植えのように内面だけではなく、外面も變えることで内面  
も外面も良くやさしさがあふれる  
と思ひます。  
これからわたくしは、あいさつをして、言葉のやりとり  
に気をつけ、みんなの手伝いを下さんやりたいです。卒業まであと少しですが、学校や町が一やさしい」と思われるうちにがんばり



下  
い  
で  
す

一日一善のつながり

当市立小学校六年  
仲宗根金

わたしの通つている常盤小学校は、美化委員会を中心にして一日一善に取り組んでいます。

一日一善とは、進んでよいさつやゴミ拾いなどをします。その一日一善を通してわたしが考えたことは、どうしたら優しい学校・町になりますかとです。わたしは、美化委員会の二つのテーマに合わせて提案してみたいと思ひます。

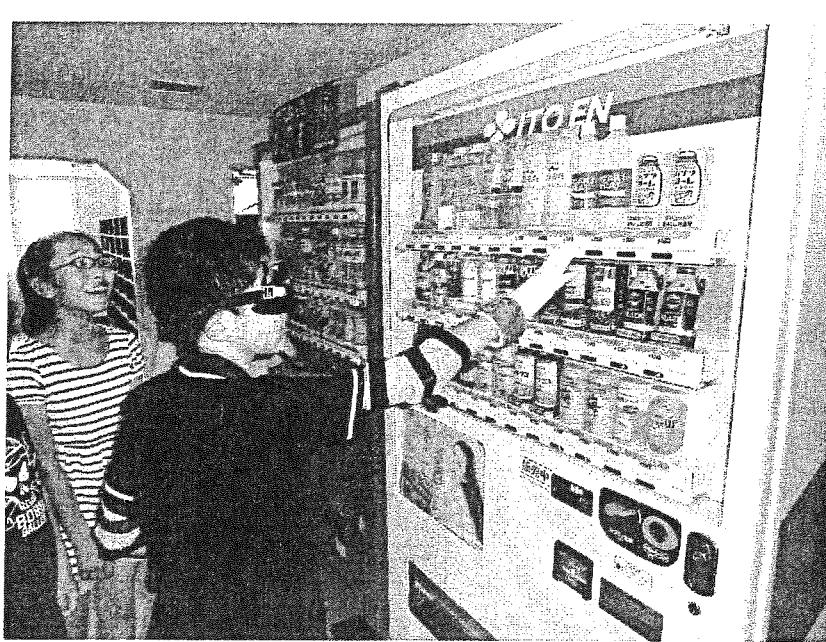
一つ目は環境の美化です。わたしは学校では教室や廊下のゴ

ミ善い、地区や町ではゴミ捨てるマーケを集めて緑を守ります。  
くなどが老えられます。歩いていたことか一度はあると思いま  
す。そしてそのゴミを拾う人も少ない  
と感じたことあります。ですが、ゴミを拾うといふ行動をすると町はやはりきれいになると見えます。  
あたリ前のことですが、身の回りをきれいにするという「環境の美化」は、とても大切だとわたしは思っていま  
る。わたしのもう一つの長處は心の美化です。わたしはまことに美化が身

田の生活でとても大切だと感じます。例えば、通りがわ先世、町の人などに連れられて旅立つたときには、どうして感心ですか。わたしは、旅立つたときに、旅張ろうと思ふ気持ちにならなくては、旅をする時も、相手のせいわへじで向かいようの気をつかうたりと、さういふ道なものであります。小さい子には、お年寄りに会っていきましたが、お年寄りには、お年寄りに会ったことがあります。お年寄り持ちになると思いました。

とても大きかったです。あなたはこじめ  
れていた人を見えてどう感じますか。  
助けようと思いますが。わたしは  
いつも誰でもいます。そこでは運営  
していつまで注意をしますことば  
めうれていた人が助かるときに  
く、学校全体が優しくなると思います。  
また次の場合も少しとくとく  
小さい学年の子が一人で遊んでいた  
ていつもおじいちゃんがいる場合が多  
あなたはどちらしますか。わざわざた  
たう、少しこそと一瞬に書くべき

あげたり。仲間外れになってしまった。こいつらたるが、  
もじも笑わしておかなければダメ。  
一人一人の気づからせが、心の変化では、  
既にさす。何たしは、心の変化だ。  
このふうに環境が少しずつ変化していく。  
時代もわたしたちの生活が少しずつ  
とても大切になります。



い  
ま  
さ  
か

う	思	間	二
こ	い	と	ニ
み	ま	し	ケ
を	す	て	一
さ	。	も	ヨ
し	。	、	ニ
り	あ	、	。
た	い	、	。
る	さ	、	。
じ	く	、	。
を	。	、	。
す	。	、	。



